

令和4年度 わかもの ボーダレスプロジェクト 実施報告書



- 期 間：2022（令和4）年11月～2023年（令和5年）1月
- 主 催：郡山市
- 運 営：株式会社エフライフ

目次

1	わかものボードレスプロジェクトの概要	・・・ 1 p
2	わかものボードレスプロジェクト（ワークショップ）	・・・ 1 p
3	わかものボードレスプロジェクト（発表会）	・・・ 3 p
	（1）田中 杏奈	
	（2）梨本 義斗	
	（3）寺尾 怜生	
	（4）佐藤 瑠	
	（5）藤田 悟	
	（6）増子 輝良	
	（7）上遠野 航太	
	（8）渡辺 叶望	
	（9）小嶋 三貴	
4	サポーターからのメッセージ	・・・ 23 p
5	品川市長からのメッセージ	・・・ 23 p
6	参加した高校生の声	・・・ 25 p
7	メディア掲載	・・・ 26 p
8	おわりに	・・・ 26 p

1 わかものボードレスプロジェクトの概要

1 わかものボードレスプロジェクトの概要

若者のまちづくりへの参画や若者の地域への関心を高めることを目的に、高校生が「SDGs」の理念を踏まえ、地域や社会の課題解決に向けた政策提言を探求し発表する「令和4年度わかものボードレスプロジェクト」を実施しました。

1月28日の発表に至るまで、計5回の勉強会とフィールドワークを開催し、高校生たちが地域をより良くする政策提言について真剣に熱く議論しました。

2 参加者

今年度のわかものボードレスプロジェクトは、こおりやま広域圏に立地する高等学校から参加者を募り、9つの高校から9名の高校生に参加いただきました。

学校名	氏名	ふりがな	性別	学年
安積高校	田中 杏奈	たなか あんな	女	1
郡山東高校	梨本 義斗	なしもと よしと	男	2
郡山高校	寺尾 怜生	てらお れい	男	2
郡山商業高校	佐藤 瑠	さとう りゅう	女	1
郡山北工業高校	藤田 悟	ふじた さとる	男	2
あさか開成高校	増子 輝良	ましこ きら	男	2
帝京安積高校	上遠野 航	かとうの こうた	男	2
清陵情報高校	渡辺 叶望	わたなべ かのん	女	2
女子大付属高校	小嶋 三貴	おじま みつき	女	2

3 運営

株式会社エフライフ 小笠原 隼人、榎 裕美

協力 NPO 法人こおりやま子ども若者ネットワーク 鈴木 綾

2 わかものボードレスプロジェクト（ワークショップ）

○第1回

日時 2022（令和4）年11月13日（日） 10：00～16：00

場所 郡山市役所 正庁

内容 オリエンテーション、SDGs ワーク（新聞記事から地域・社会のニュースをピックアップ）、政策提言に向けてのレクチャー



○第2回

日時 2022（令和4）年11月26日（土） 14：00～16：00

場所 福島コトひらく

内容 グループワーク（テーマ設定に向けたグループワーク、）



○第3回

日時 2022（令和4）年12月4日（日） 14：00～16：30

場所 郡山市役所 正庁

内容 マンダラートを使ったテーマの深堀りワーク、自身のテーマのプレ発表



○第4回

日時 2022（令和4）年12月17日（日） 9：00～16：30

場所 郡山広域圏各地（株式会社いなびし、リサイクルショップPreciousONE、まちの人事部こおりやま、マデニヤル株式会社、郡山市社会福祉協議会、キッズスタジオ PORTA、NPO 法人青少年の自立を支える会シオン、日本えごまの会）

内容 グループに別れてのフィールドワーク



○第5回

日時 2023（令和5）年1月14日（土） 14：00～16：30

場所 郡山市役所 特別会議室

内容 リハーサル、発表に向けてのブラッシュアップ

3 わかものボードレスプロジェクト（発表会）

■YouTube と zoom による生配信

1月28日に行われた令和4年度わかものボードレスプロジェクト（発表会）では、発表会の模様を zoom と YouTube で生配信しました。

こちらの QR コードから発表会を撮影した動画を視聴できます。
ぜひご覧ください。



■堂々とした素晴らしい発表

発表当日は体調不良で1名欠席となってしまったものの、後日発表動画を撮影して YouTube に投稿し、参加者9名全員に発表いただきました。

どの発表も個性にあふれ具体性が高く、また、発表した高校生の立ち振る舞いも堂々としており、フィールドワークでお世話になった地域の方も感心していました。発表を聞いた市長も高校生のみなさんの問題意識の高さ、着眼点の鋭さに感心し、熱いエールや具体的なアドバイスをおくっていただきました。

(1) 田中 杏奈

【発表テーマ】

“推し愛”はこおりやま広域圏を救う その鍵は音楽都市郡山？！

【発表内容】

- 音楽と市民が共存する“音楽都市郡山”を提言
- 音楽はどんなものとも融合でき、誰もが楽しむことができるものであり無限の可能性を秘めている
- 郡山の自然豊かな公園で、若い世代が楽しむことのできる音楽フェスを提案
- 高校生が運営に関わることで人件費を抑えることができ、かつ高校生の主体性と街への愛着が生まれ育つ
- 音楽は言語を必要としないので、国際的な都市の育成に貢献する

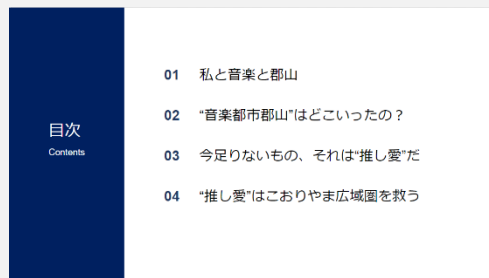
品川市長からの コメント

- 町の中にあるピアノをどんどん使って表現してほしい
- 音楽も数学で構成されているのでぜひ勉強して学んでほしい
- これからも心を豊かにする音楽に携わり続けてほしい

サポーターコメント（小笠原）

- 田中さんはいつも明るく場を盛り上げてくれていた
- 郡山でかつて実施した音楽イベント“ワンステップフェスティバル”では数万人が訪れた
- 田中さんのエネルギーとキャラクターで面白いものをつくりあげてほしい

発表資料



01_私と郡山と音楽

- ! name 田中杏奈
- ! live in 郡山市
- ! school 安積高校(高校1年)
- ! like 英語、国際交流

My life is... **Music!!!!!!!!!!**

I love ... **Music!!!!!!!!!!**



02_ "音楽都市郡山"はどこいったの?

「あれ? 音楽がいつも同じ?」 「音楽ってお堅めのイメージ?」

本当の"音楽都市郡山"ってなんだ...? 「古い世代は...?」

「みんなが楽しめる音楽ってなんだろう?」 「音楽ってなんか一方通行?」

02_ "音楽都市郡山"はどこいったの?

○私の考える理想の"音楽都市郡山"

音楽と市民が共存

→音楽がまだ身近ではない

→音楽に触れる機会が少ない...?

02_ "音楽都市郡山"はどこいったの?

○機会の少なさ= 遠い存在 なら...!!

機会を作っちゃえばいい!!

02_ "音楽都市郡山"はどこいったの?

○なぜ"音楽都市郡山"が定着しなかったの...?

02_ "音楽都市郡山"はどこいったの?

○香川県 = ? ? ?

03_ 今足りないもの、それは"推し愛"だ

「あれ? 音楽がいつも同じ?」 「音楽ってお堅めのイメージ?」

音楽が好きな人じゃないと正直辛い... 「若い世代は...?」

「みんなが楽しめる音楽ってなんだろう?」 「音楽ってなんか一方通行?」

「古い世代は...?」 「同じ世代が企画、運営したら...!」

「音楽ってなんか一方通行?」 「音楽になんでもできる...!」

03_ 今足りないもの、それは"推し愛"だ

「あれ? 音楽がいつも同じ?」 「音楽ってお堅めのイメージ?」

→ 「読書・音楽を元ネタせば...!」 → 「もっと自分な郡山なら...!」

これこそ本当の"音楽都市郡山"...

「みんなが楽しめる音楽ってなんだろう?」 → 「目的音楽なら...!」

「古い世代は...?」 → 「同じ世代が企画、運営したら...!」

「音楽ってなんか一方通行?」 → 「音楽になんでもできる...!」



03_今足りないもの、それは“推し愛”だ

○郡山を“最大限”活用した音楽フェス
 実行協賛が止まればいい！！！！！！



Withピタコッタ?
 死闘戦決しちゃうん?

後者戦がらららら



03_今足りないもの、それは“推し愛”だ

○Who is 未来の“音楽都市郡山”の担い手?

The answer is ... **若い世代！！**

-、自分達と同年代を取り込む必要性大！、-

03_今足りないもの、それは“推し愛”だ



03_今足りないもの、それは“推し愛”だ



03_今足りないもの、それは“推し愛”だ

○経費削減のために...

- ・割引中の施設を最大限活用する
- ・施設の利用料を専任員に
- ・運営を学生にすることで人件費を減らす



03_今足りないもの、それは“推し愛”だ

○無料化の鍵はこおりやま広域圏にあり...



04_“推し愛”はこおりやま広域圏を救う

音楽は**言語を必要としない**コミュニケーションツール

音楽の発展

国際的な都市の育成に役立つのでは？

(2) 梨本 義斗

【発表テーマ】

ボランティアを身近なものに

【発表内容】

- ボランティアの数も、ボランティアに参加する人の数も少ない現状がある
- ボランティアは、自主性・自発性が育ち、多くの人と出会うなど普段できない経験ができる素晴らしい体験である
- ボランティアを知る機会とボランティアの企画を募集するしくみが重要
- 「まちの人事部こおりやま」では実際にボランティアをしてほしい人とボランティアしたい人のマッチングを行っている
- ボランティアが身近になり、地域全体が助け合える街にしたい

品川市長 コメント

- ボランティアは誰かと一緒にではなく、「自分がやるんだ」という意識が重要
- 人事部という仕組みがあるのは世界でも日本だけ
- 梨本さんの得意なピアノを母校で弾くなどのボランティアも行ってほしい

サポーターコメント (鈴木)

- 社会活動に参加している人の調査によると、大学生や高齢者が多い
- いろんな体験をしたいと思っている若い人は増えているという統計がある
- これからどんどん若い人の視点でボランティアを広げていってほしい

発表資料

わかものボーダレスプロジェクト 2022 報告会

ボランティアを身近なものに

自己紹介

名前	梨本義斗
生年月日	2005年12月19日
出身	福島県
高校	郡山東高校
趣味	ピアノ

人から感謝されることに生きがいを感じている

なぜこのテーマなのか

ボランティアをしたい！

調べてみた結果...

ボランティアが全然ない...

なぜこのテーマなのか

せっかくやろうとしたのに...

ボランティアを活性化させたい

現状と課題

現状①
ボランティアが少ない

現状②
ボランティアに参加しようとする人が少ない

現状① ボランティアが少ない

activo

・1件

郡山市社会福祉協議会

・6件

ジャンルが少ない

※2023年1月27日

現状② ボランティアに参加しようとする人が少ない

定期的・継続的なボランティア活動に参加したことがある	9.2%
単発的なボランティア活動に参加したことがある	21.5%
ボランティア活動に興味・関心を持ったことはあるが、具体的に行ったことはない	45.6%
ボランティア活動について見聞きしたことはあるが、興味・関心をもったことがない	22.2%
その他	1.7%

ボランティアの魅力が伝わっていない

ボランティアが少ない
ボランティアに参加しようとする人が少ない

ボランティアの魅力

- ①自発性・自主性が育つ
- ②普段できないような体験ができる
- ③いろいろな人との出会いがたくさんある

素晴らしいすぎる

なぜボランティアの魅力が伝わっていないのか？

ボランティアの知識、情報が少ない

以前から問題視され続けている

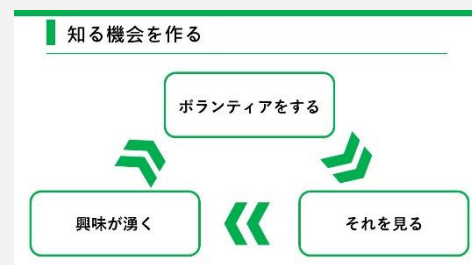
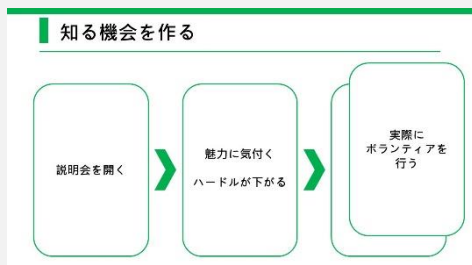
ボランティアの知識、情報が少ない

- ①小規模団体はボランティアサイトにでてこない
「サイト」ではなく「チラシ」で呼びかけ
- ②ボランティア説明会や交流の機会が少ない

ボランティアの知識や情報を増やす

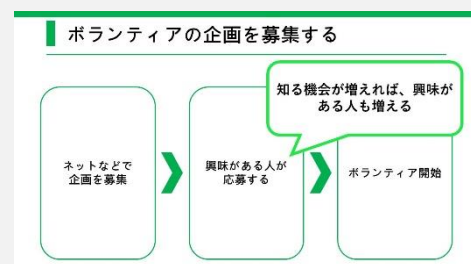
解決策

知る機会を作る



解決策

ボランティアの企画を募集する



企画例

- イベントのスタッフをしてほしい
- 街をきれいにしてほしい
- 子供たちのお世話を手伝ってほしい
- 福祉施設のお手伝いをしてほしい

まちの人事部こおりやま

「働くをもっと楽しく、もっとクリエイティブに」をモットーに活動

「お願い事」と「できる人」を募集し、マッチングさせている

企画例

気軽 簡単 安心

- お願い！ 草むしり手伝ってください！
- できる！ 車の使い方教えます！
- お願い！ YouTubeの撮影を手伝ってください！
- できる！ スタンプ作れます！
- お願い！ ビジネス英語を教えてください！
- できる！ お買い物お手伝いします！

ボランティアの企画を募集する

気軽 簡単 安心

ボランティア企画が増えること間違いなし！！

創りたい未来
ボランティアを身近なものにする
地域全体が助け合えるような街にする

生み出したい成果
ボランティアに参加する人が増える
自分の可能性を広げる



つくし祭り

清水台つくし祭り

開催予定日 4月16日
場所 安積国造神社参道
主催 real local



「人と人の繋がりを目的とし、地域活性化を目指す」

ご清聴ありがとうございました

<https://machinokoe.com/#goal> まちの人事部
<https://www.reallocal.jp/97203> real local
<https://tsukushi-matsuri.jp/> つくし祭り
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/houshi/detail/1369080.htm 文部科学省



(3) 寺尾 怜生

【発表テーマ】

高校生と地域防災～高校生が担う地域の防災～

【発表内容】

- 避難所の環境改善を行うことで災害関連死をなくしたい
- 日中に発生した災害においては災害時に力を発揮できる仕組みをつくりたい
- 災害発生時、高校生が地域巡回・避難所運営など適材適所にわかれて動くことのできる仕組みを「大槻モデル」として提案
- 大槻モデルを広めるため、高校代表者との連携や日頃の防災訓練講習への参加などが求められる
- 地域防災に高校生の力を活用する仕組みづくりを市が主導することで公共×公助が実現

品川市長 コメント

- 「行政サービス」から「行政サポート」という考えに移行しているので、共助という考えがぴったり合った発表だった
- 防災は地域ごとに必要な情報が異なるので、どのような対策が必要かまずは自分が住んでいる地域や高校の周りなど身近な地域の防災について調べてみるとよい
- 学校の部活でも積極的に取り組んでほしい

サポーターコメント (小笠原)

- 堂々としたプレゼンで、才能を感じた
- 高校生として何ができるか、自分たちが当事者としてできる最善の提言をしてくれた
- このモデルを郡山から広く広めていってほしい

発表資料

高校生と地域防災 ～高校生が担う地域の防災～

郡山高校 寺尾裕生

自己紹介

2006年生まれ（5歳時に東日本大震災を経験）
西田学園→郡山高校（2年）
弓道部
第46期生徒会長



西田学園

このようなニュースが・・・

日本の避難所の環境が世界的にみて低い
高齢者の自力での避難が難しい
→今日の防災の課題
なんとかしたい

災害関連死の状況

災害関連死とは
災害による直接的被害ではなく、避難途中や避難後に死亡した者の死因について、災害との因果関係が認められるものである
→避難所の環境改善で防ぐ

防災士の方のお話によると・・・

日中に発生した災害においては

高校生の力が非常に重要

災害関連死の状況

～東日本大震災の場合～

年齢層	合計	震災発生時	避難中	避難後
0歳～14歳	400	80	100	220
15歳～64歳	800	100	150	550
65歳～	2,000	100	200	1,700
合計	3,200	280	450	2,470

災害関連死

高齢者の災害関連死が多い
→高校生が避難所運営に関わることで減らせないだろうか

～熊本地震～

年齢層	合計	震災発生時	避難中	避難後
0歳～14歳	100	20	30	50
15歳～64歳	200	30	50	120
65歳～	500	40	80	380
合計	800	90	160	550

地震発生時間と対応速度の違い



日中 多くの人が勤務中 →対応が遅れる

夜間 多くの人が在宅 →素早い対応

日中は共助が不足→地域の高校生が穴埋め

過去の大地震

地震発生時間はバラバラ

大地震発生時の時刻

東北地方太平洋沖地震
(東日本大震災)

PM 2 : 46

沖地震

PM 1 : 07

令和4年福島県沖地震

PM 11 : 36

高校生を活用するメリット

実際に日中に災害が発生した時、高校生なら・・・

避難所となる学校にいる

地域のことをよく理解している

教育しやすい

郡山高校で検証（大規模モデル）

災害想定 2.46、M9.0の地震発生。郡山市内で震度6弱を観測。郡山高校6時限目。生徒、教職員に負傷者なし。校舎の一部に被害。（窓ガラスの損傷など）周辺地域一帯が停電及び断水。
（東日本大震災クラスを想定）

大規模モデルの概要

地域巡回チーム

地域の高齢者や障害者の安否確認、救援。

避難所運営チーム

炊き出しや、物資提供などの避難所運営のサポート。



適材適所



活動内容（大槻モデル）

3:15 生徒のほぼ全員の活動可能を確認。活動開始。

周辺地域の高齢者などを巡回、避難所（郡山高校）に誘導。



大槻モデルが実現すれば・・・

一人暮らしの高齢者が無事に避難所までたどり着ける。

高校生が避難所運営に関わることで運営効率が良くなり避難所環境が良くなる。

高校生自身が経験として多くのものを得られる。

大槻モデルを市内に広める

市内の各高校同士が連携できるシステムをつくり、大槻モデルを市内に広める

→市の防災力向上!!

総合防災訓練参加値

参加した高校生には

- 海外研修などの研修プログラムの提供
- 各種資格の受験料一部補助
- 市内の飲食店のクーポン配布
- 防災グッズの配布

多くの高校生にとって将来的に有利になる
(訓練に参加する事自体も含めて)
市内の飲食店を応援することにもつながる
自分の家の防災力も上がる



最後に・・・

社会には多くの暗いニュースが溢れているが、その状況に立ち向かおうとする多くの人たちがいることが分かった。そのような人たちが口を揃えておっしゃったのが「高校生の力が大きいものだ」ということ。これからは社会の課題を見つめ解決できるような高校生、大人になりたいと思った。そしてこのような機会をいただけたことに感謝します。ありがとうございました。

活動内容（大槻モデル）

4:15 地域巡回チームが戻ってくるタイミングで避難所開設。

衛生環境の整備。
(簡易トイレの設置など)



↑簡易トイレ

大槻モデルの課題と改善案

高校生自身の安全確保

- 設備、装備の充実化（ヘルメットなど）
- ボランティア保険への加入
- 教育の徹底（救命法など）

郡山市独自の保険→

地域住民への理解

- 日々からの交流



大槻モデルを市内に広めるための手立て

各高校代表者による情報共有の機会の創出

総合防災訓練への参加（各校交流・連携の機会）

広報の徹底

郡山市が中心となり講習会の実施をする



↑総合防災訓練の様子

結論

少子高齢化の進む中で地域防災には高校生の力が有効
その仕組みづくり市が中心となっていくことでより確実になる

→公助×共助の実現へ

ありがとうございました
Thanks for watching.



(4) 佐藤 瑠

【発表テーマ】
未来の子どもたちをみんなで育てる

- 【発表内容】**
- 我が家のように、実の親子でなくても一時的に子どもを預かる里子の制度がもっと広まってほしい
 - 日本では親が子を育てるのが当たり前の風潮があり、里子の制度を知っている人は少なくそれを知る

機会も少ない

- 授業で子育てに関する“共育”を取り入れ、地域で一時的な預かりをする家を増やすための政策を提言
- 地域の中で里子を育てるイメージをわかりやすく説明すると「ももたろう」
- 実親以外の大人が子どもを育てるのが当たり前の社会をつかっていきたい

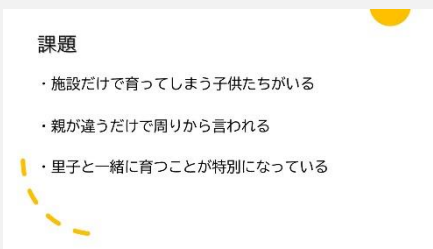
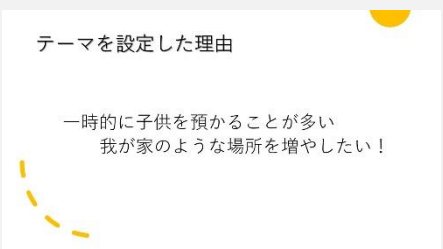
品川市長 コメント

- 郡山市でも、数年前に病院に置かれていた子どもを施設で引き取り市長が名付け親になったことがある
- 子どもたちが学校で見せる姿と家庭で見せる姿が異なり、現状がわかりにくくなっている
- 自治体としても考えていかねばならない問題を一緒に考えてくれていることが申し訳ないと思うと同時に、感謝している

サポーターコメント（鈴木）

- 生まれた家に関わらず、地域の中でみんなで子どもを育てることが大切
- 里子と一緒に暮らす経験をしたことのある佐藤さんが訴えることで、より広く社会に伝えることができる
- 学校現場でも、佐藤さんが先生になって自身の経験を伝えていってほしい

発表資料



乳児院などの児童養護施設

- ・事情がある0歳～2歳児の預かり
- ・理想は家族で子育てだが、できなかった場合に必要

課題の原因

- ・親が子を育てるが前提の社会
- ・制度を知らない
- ・学ぶ機会がない

政策提言

- 授業の一環で子育てに関する**共育**
- 各地域で地域の人が一時的な預かりをするお家を増やす



創り出したい未来・生み出したい成果

実親以外の方が育てることが
当たり前になること

誰ひとり取り残さない社会

一緒に活動してくれる人と増やす



(5) 藤田 悟

【発表テーマ】

福島県ごみ排出量ワースト脱却プロジェクト

【発表内容】

- 福島県のゴミの排出量が全国でワースト2位という事実にとっても衝撃を受けた
- ごみを減らすためにはごみの分別が必須だが、分別の重要性を知っている人は少ない
- ごみの分別を促すために、自分が関わっているeスポーツのイベントで情報発信を行うことを提案
- ごみ箱のふちを光らすゲーミングごみ箱を設置するなど、ゲーム好きの人にごみの分別について興味を持ってもらえるように
- イベントでの取り組みを継続して行い、福島県からごみ削減の取り組みを全国に広げていきたい

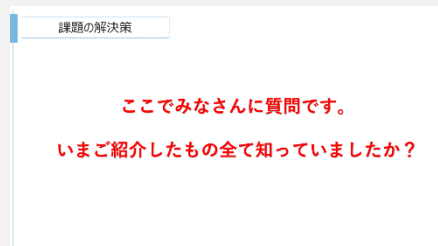
品川市長 コメント

- 解体したあとの廃棄物をどうしたらよいかについて考えるのはどうか
- 市で出しているごみカレンダーの改善はSDGsにつながる
- 環境は自分ごとになりにくい問題。身近にやるのが重要だが難しい

サポーターコメント (小笠原)

- 既に実践をしていたり、学校でも様々なことに取組んでいたりと、行動力が素晴らしい
- 得意なことと自分の課題意識をつなげた、具体性のある良い提言
- 会社としてもぜひイベントに協力したいので、これからも見守って応援している

発表資料



課題の解決策

これらのことから
情報発信が必要
と私は考えます

課題の解決策

情報発信をするためには--
イベントを開こう!!

イベントコンセプト
 ・あくまでもSDGsのイベントではない人を集めるため
 ・楽しく何気なくこの活動に参加している状態を作る
 ・リビートしてもらえ
 ・実践できる
 ・SDGs、福島県のごみ問題について理解してもらえ

課題の解決策

自分でもできるイベント--
eスポーツイベントだ!!

課題の解決策

eスポーツとは
 「eスポーツ(eSports)」とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う競走、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピュータゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。



課題の解決策

今回のイベントで行うこと

オープニングイベントやチラシなどに福島県のごみ問題、SDGsに関する記載をする
 SDGsグッズや製品の提供、販売を行う
 販路に設置するごみ箱を分別できるものにする
 今後資源がなくなってしまうとゲームができなくなることを伝える
 +α



誰でも簡単にできることを知ってもらおう
 このようなコミュニティから協力者を増やしていくことが大事だと私は思います

課題の解決策

具材例

RGBライト

分別できるごみ箱

SDGsグッズ

RGBで光らせるゲーミングパッチ

ふらで光らせるゲーミングごみ箱

これらすべてをゲーミング仕様にする

RGBで光らせるゲーミング箱

課題の解決策

自治体、企業様へお願い

私のような学生がこのようなイベントを開くのはとても大変なことです
 そこで、
 協賛や後援、物品の提供、商品開発などをお願いしたいです
 をらみん、メソットとしてSNSやササシでの掲載、
 全国からの参加者へのアプローチや企業の認知度アップやイメージアップが期待できます。

継続して行うことや輪を広げて行くことが大切

**社会問題解決のために
 一緒に立ち上がりませんか!!**

課題の解決策



今回私が提案したことは難しいことでもたくさんのお金がかかることでもありません
 皆さんひとりひとりの小さな力がこの地球を支えるのだと私は確信しています
 SDGsに取り組むことは地球のためにも、誰かのためにも、自分のためにもなる

この話を聞いていただいた皆さんは
福島県や世界のごみ問題解決に取り組むために必要な仲間です
ぜひ今日から実践してください

作り出したい未来、生みだしたい成果

今回のテーマである
福島県ごみ排出量ワースト脱却

福島県の取り組みや今回の取り組みを参考にほかの地域へ広げていき世界的な活動になったらいいと思う



ふくしまからはじめよう。

ひとりひとりのちいさな行動が大きな力になる

ご清聴ありがとうございました

(6) 増子 輝良

【発表テーマ】

音楽を使った郡山市の活性化

【発表内容】

- 音楽都市郡山を、音楽の力でもっと盛り上げたい
- ライブハウスはいくつかあるが、野外で音楽活動を行うことのできる場所や機会が少ない

- 土地が広く自然が多い郊外に野外フェス会場を整備し、音楽イベントを実施することを提案
- 音楽は人を救うことのできる唯一無二のツール
- 「福島といえば音楽」と言われるほど、音楽を通じて町を盛り上げたい

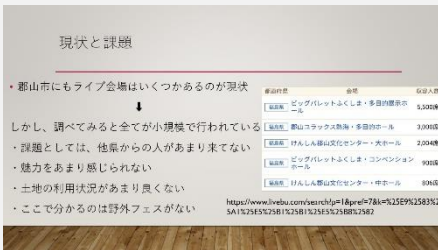
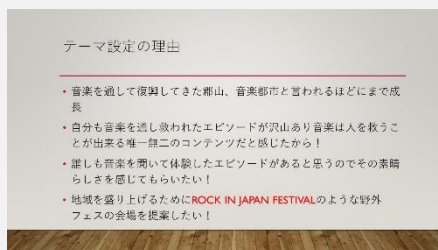
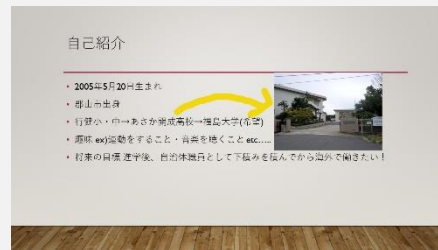
品川市長 コメント

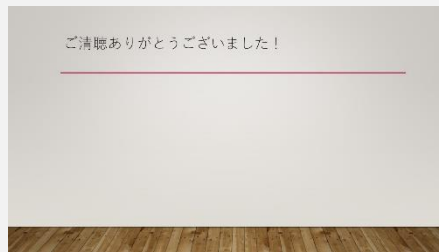
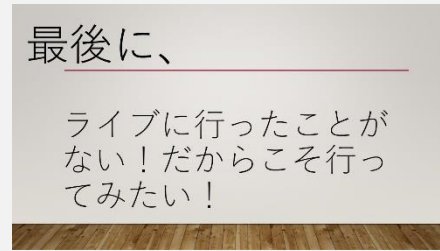
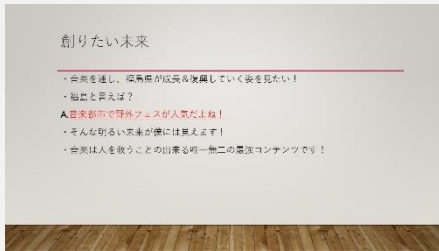
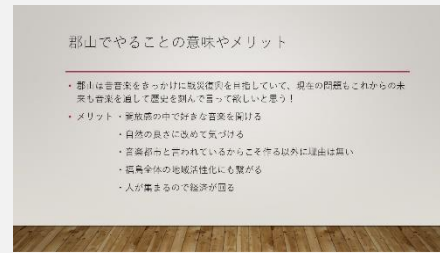
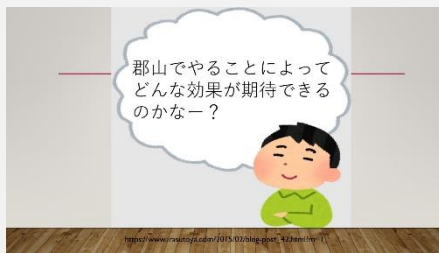
- 実施するのにどれくらいの運営費用が必要か、計算してあぶり出してみることが必要
- 市役所としても応援できることは応援するのでぜひ頼ってほしい
- かつて1974年に開成山公園で開催した音楽イベントを参考にするとよい

サポーターコメント (鈴木)

- 自分がどの立場として関わりたいかを明確にしたうえで進めていくとよい
- やりたい人を参加者として応援することも、とても大事なこと
- いろんな関りの人の想いが紡がれていくととても良いイベントになる

発表資料





(7) 上遠野 航太

【発表テーマ】

〇〇〇を世界に 正しい〇〇〇で健康に

【発表内容】

- えごまが田村市の特産であることや、えごまの本当のおいしさを知っている人は多くはない
- 多くの農家が間違った栽培をしていることで、えごまが酸化してしまい、良質ではない製品が出回っている
- 農家や市役所など多くの人が連携して正しいえごまを広めていくことが必要
- 地域マルシェでえごま本来の味を活かした製品を販売して、えごまを広めていきたい

- 正しいえごまが世の中に広まり、みんなが健康になる社会をつくっていききたい

品川市長 コメント

- 少量でもマーケットになる「ロングテール」というモデルを目指していくことが良い
- 健康にどのような効用があるか、研究していくことで道が開ける
- シェフになるために、えごま以外の料理も同時に研究していくことが必要

サポーターコメント (小笠原)

- 実際に農家さんのお話を聞いて、自分が描いていた考えを柔軟に変えていった点が素晴らしい
- えごまを広めていくために、これからもいろんな人の声を聞きながら取り組んでほしい
- 地元の食材を大事にできるシェフは地域から求められているので、他の食材も同じように関心を向けて取り組んでほしい

発表資料

○○○を世界に
正しい○○○で健康に


帝京安積高等学校2年
上遠野 航太

帝京安積高等学校2年
上遠野 航太 (かとうの こうた)

- ・田村市出身
- ・趣味：料理、音楽鑑賞
- ・将来の夢：料理人
- ・5人兄妹

Q：田村市の特産は
なんでしょう？

A, えごま



は？

えごま を世界に
正しいえごま で健康に



☆テーマ設定の理由

- ・地元 田村市の特産品
- ・えごまを知っている人が少ない
- ・えごまでみんなが健康になってほしい

テーマの「正しい」とは何か？

- ・たくさんの農家が間違った栽培をしている
- ・体に害があるかもしれない
- ・良質な製品が少ない

☆今の現状

- ・えごま本体やえごまの
おいしさが知られてない
- ・間違えた栽培方法が世に多く広がっている
- ・粗悪な製品が出回っている

▶改善するための課題とは

- ・イベントでの発信
- ・インターネットの活用
- ・市の協力

★課題が生まれる原因

- ・田村市自身の推しが弱い
- ・栽培している農家自体が少ない
- ・えごまの本当のおいしさを知らない

●課題の解決策

農家の取材前. . . ・たくさんの製品を作る
・YouTubeで発信する

農家さんの考え. . .

- ・素材をあまり加工しないでほしい
- ・素材をなるべく生かしてほしい

▶それらを含めた解決策

- ・地域のマルシェなどでのえごま料理の提供
↓大切にしていくこと
- えごまの特設コーナーを設ける
- えごまが広まりやすい環境作り

●創りたい未来・理想の状態

- ・正しいえごまが広まること
- ・えごまがおいしいものになること
- ・正しいえごまでみんなが健康に

**より良い
えごまライフを!**

(8) 渡辺 叶望

【発表テーマ】

海や湖をきれいにしてきれいな状態を保ちたい!

【発表内容】

- リサイクルできるはずのプラスチックが捨てられていることに問題意識を持つ
- プラスチックの回収過程に着目し、みんながリサイクルしたいと思うゴミ箱を設置することを提案
- 子どもや学生も興味をもって、リサイクルしたくなるデザインのゴミ箱を考案
- バス停に設置すれば、バスの待ち時間に興味を持ってもらうことができる
- 誰もがプラスチックをリサイクルしたくなる社会をつくっていきたい

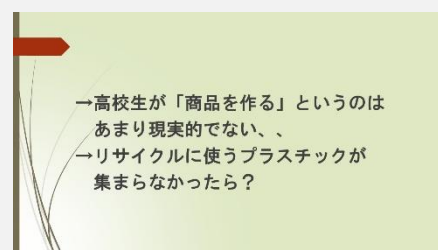
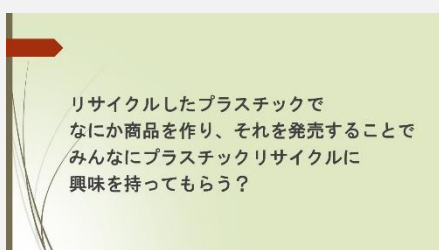
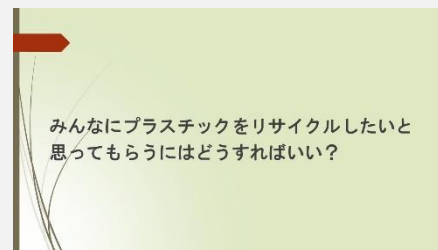
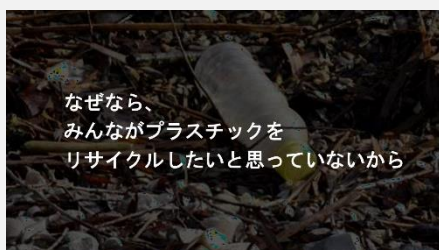
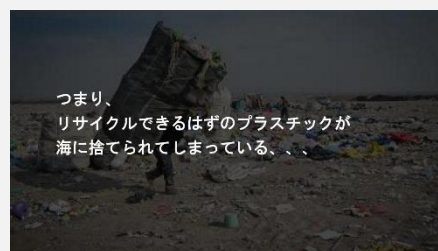
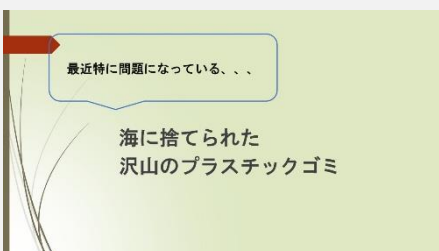
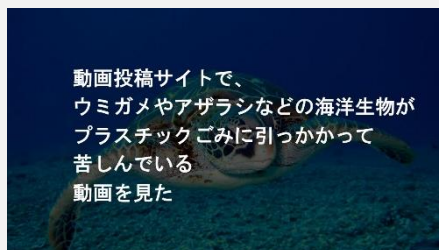
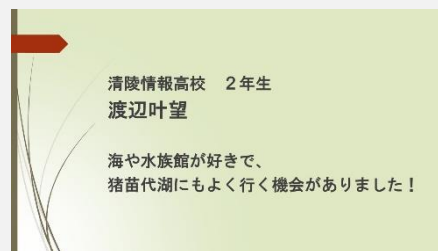
品川市長 コメント

- ごみを「捨てないで」というのではなく、思考を変えて遠回しに呼びかける「ナッジ」という理論を取り入れた素晴らしいアイデア
- なぜごみを捨てればいけないのか、マイナスの要因を説明できるようになるとよりよい研究ができる
- 大きな1問題も小さな1歩から取り組むことが大事

サポーターコメント（鈴木）

- アイディアを出すということも大事な参加の方法
- 子どもや若者世代が関心を持てることを、当事者の目線から発信してくれた
- いかにか人を惹きつけるかというデザインについて書かれた「弱いロボット」という本が参考になるのでおすすめ

発表資料



プラスチックのリサイクルの
順番を考えてみる！

家庭で分ける

市町村で集める

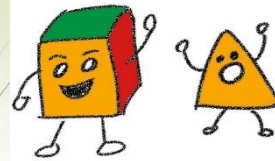
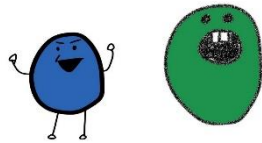
工場でリサイクルする

プラスチックをリサイクルする過程に
工夫を加えることでプラスチックの回収量を
増やすのではなく、
プラスチックを回収する過程に
工夫を加えるほうが良いのでは？

→みんなにプラスチックをリサイクルしたいと
思ってもらえるような
プラスチック専用のごみ箱を設置したい！

しかし、
アイデアを考えるのに
とても苦戦、、、

「子供から学生に
興味を持ってもらえるように」
という考えのもと、
デザインを考えることに！



目につきやすいデザインで、
かわいらしく楽しい見目で、
写真を撮って楽しんでもらえるように！

友達に手伝ってもらった案と
自分で考えた案の2つを紹介します！

目が大きくて
とてもかわいらしい見た目！

ハートのボタンを押すと、
口が開いてプラスチックゴミが
捨てられるように出来るようになる！

ゴミを捨てる際にかがんでボタンを押すという
ひと手間があるので、
「ごみを捨てた」という自覚ができる！

身長は100センチほど

それぞれテーマにした形を基調にしているので、
楽しい見た目！



色合いがシンプルかつ
はっきりしていて、
目につきやすい！

身長は80センチほど

どこに設置すれば
みんなに気づいてもらえて、
プラスチックごみを捨ててもらえるか、と
考えた。

バス停に設置すれば、
数分の待ち時間もあるし、
たくさんの人に目を向けてもらえるのでは!?

みんなに興味を持ってもらえるようなゴミ箱を設置する
というのは私がこのテーマを考えだすきっかけに比べると
小さな一歩かもしれないが、
今日提案したゴミ箱を設置することで、
みんなにプラスチックをリサイクルしたいと
思っ貰える社会を創りたい!

ご清聴ありがとうございました!

(9) 小嶋 三貴

【発表テーマ】

ゴミの分別促進とカラス被害を減らそう～カラスってどうやったら近づかないの?～

【発表内容】

- ゴミ出しのたびにカラスの被害があり、またきちんと分別ができていないことに問題を持つ
- ゴミ捨て場、カラス対策、ゴミの分別の改善が必要
- 網を立体的にし、カラスのくちばしが届かないかつ郡山らしいデザインのごみ捨て場を提案
- ごみの捨て方を小さな冊子にまとめて市内の店舗に設置することを提案
- カラス被害でゴミ出しが憂鬱にならず、SDGs を当たり前意識して地球を大切にできる未来をつくっていききたい

※小嶋さんは報告会当日欠席し、後日動画収録という形で発表を行ったのでサポーター及び市長からのコメントはありません。

発表資料



テーマ設定の理由

ゴミ出しをしている母が毎回カラスがゴミ袋を破き、散らかしているカラスに困っていて、何か対策ができないかと考えた

学校でも、家でも細かくは分別出来ていないと感じた

課題の原因①

▶ なぜカラスの被害があるの??

- ・ゴミ出し場の網があまり役にたっていない
- ・カラスを気にしないで雑に捨てている

▶ 網を見直そう!!!!



いらすとやより使用

課題の解決策①

▶ 網を見直そう!!!!

今の時点でよく見るのが、黄色い網です。カラスが近付かない色は無いのか、苦手なものは無いのか。いくつか調べてみた結果 あまり意味が無い。

そこで考えたのがゴミ捨て場らしくないデザインだったり、音がでたりするハイテクなものしかし、カラスのくちばしが届かなければ解決

▶ 網を立体的にしてしまおう!!!!



ブロックを両端に重ねて壁を作り、網がゴミに直接乗らない状態にする。ということです!!!!

立体的にすることでカラスのくちばしが届かない

そして、網の色は緑や黄色をよく見るので郡山感を出すために



▶ 小さな冊子にしてお店などに設置したり配布する

- ・冊子にしたところで見てもらえるのか?
- ・どんなデザインなら手に取って貰えるのだろうか?



▶ カラフルなやつ? 面白いやつ? 可愛いやつ? カッコいいやつ? シンプルなやつ?

政策提言のまとめ

① ゴミ捨て場の網の見直し



② 小冊子にしてしまおう



いらすとやより使用

現状と課題

現状

- ・ゴミ出しの度にカラスの被害
- ・分別がしっかり出来ていない

課題

- ① ゴミ出し場の見直し
- ・カラス対策の見直し
- ② ゴミの出し方

課題の原因②

▶ なぜ細かく分別できないのか?

- ・捨て方が良く分からないものがある
- ・ただ単にめんどうくさい
- ・手間がかかってしまう

▶ 捨て方をまとめちゃおう!!!



いらすとやより使用

できるなら全てマンションやアパートのようなところの小屋風ゴミ捨て場にしてしまいたい!!!!

けれど・・・

- ▶ 場所には限りがある
- ▶ 狭いところでもできる必要がある

実は、立体的な網、カラスのくちばしが届かなそうなゴミ捨て場は近くにもいくつかありました



課題の解決策②

▶ 捨て方をまとめちゃおう!!!

郡山市のサイトには細かい種類のゴミの捨て方がありました!

ゴミの日カレンダーなどに書いてあること以外の細かい種類までわかります!



これをスマホなど利用しなくても知る方法はないのだろうか?

私にはデザインが思い浮かびませんでした



会場の皆さまはどのようなデザインだったら気になる!!!! となりますか??

創り出したい未来・生み出したい成果

カラス被害でゴミ出しが憂鬱にならないような未来

ゴミの捨て方が良くない、間違えている。もっと意識しないとダメだ。と言われないような分別して当たり前。な未来

SDGsを当たり前を意識して地球を大切にす未来



ご清聴ありがとうございました!!!

登壇イベント
・ 郡山市 <https://www.city.koriyama.lg.jp/soehaku/56/1060.html>
・ いらすとや

4 サポーターからのメッセージ

プロジェクトを伴走してきたサポーターの小笠原さん、鈴木さんから、総評にかえて高校生の皆さんに向けて応援のメッセージがおくられました。

小笠原さん

皆さんお疲れ様でした。本当に大変だったと思います。こうやっっている人々の前で自分のアイデアを言うっていうのはすごく勇気があることですし、3ヶ月という中でかなり高密度を濃くやってくれたと思います。もちろん完璧なものなんか作れないと思うんですけど、この期間中に一生懸命考えてそこに向き合ったっていうことが、すごく大事だと思うんですね。

だから今日、いろんな発表を聞いて、気づきもいろいろあったと思うんです。仲間がこんなふう考えたんだな、みたいな。我々もすごく気づかせてもらいましたし、高校生のときに自分がこんな風にできたかって言ったらそうじゃない大人もいっぱいいると思います。

そんな中でみんなが本気を出して今日この時点ではこういうものを作りあげ、さらにこの先どうなっていくかということがすごく楽しみだし、本当に僕自身が今日ワクワクしてこれから9人、これをきっかけに素晴らしいプロジェクトが動き出して、何か形になっていくのかなど。たとえプロジェクトが違うものになったとしても、素晴らしい9人の人材がこの街を良くしていくんだなって感じられたのがとても嬉しいことでした。これからも楽しみにしています。

鈴木さん

冒頭で小笠原さんが「政策提言というのは、ただ投げるだけではなくて自分が当事者になってやることだ」というような話もしてくれましたが、まさしく僕も皆さんに、僕がやることを宣言したいなと思います。

僕は普段、子供若者を応援する仕事をしているので、ぜひ皆さんがこのプロジェクトを前に進めたいと思ったときにぜひ頼ってください。僕や僕の仲間たちが全力で皆さんの力になりたいなと思っています。もちろん得手不得手があるという言い訳はするんですけど、必ず皆さんと一緒に進みたいなと思っていますので、メッセージを言うだけじゃなくて、僕は一緒にやりますよっていう宣言をして、かつ皆さんの発表に感謝して総評としたいなと思います。どうもありがとうございました。

5 品川市長からのメッセージ

最後に、品川市長から、地域をより良くするための政策提言を熱心に考え発表した高校生へメッセージがおくられました。

「皆さん、いい意味でませてるなど。自分の高校・中学校時代を振り返りますと、皆さんが悩んで考えているようなことに全く関心を向けませんでした。そういう情報に接しませんでした。

もっばら、兄弟そして学校が唯一の情報源でしたから、皆さんのように広く関心を得ることはできませ

ん。そういう意味で、大きく情報環境が変わっているんだなってことを改めて知りました。しかしそれ以上にですね、皆さんが本当にいろんなことを考えて、心を悩ませ一生懸命考えておられることに感心するし、敬意を表したいと同時に、ある意味で申し訳ないなど。我々、このような職業にある者が、皆さんにそこまで考えさせてしまっているのかという思いも致しました。しかし、これはもういい悪いを言ってもしょうがないので、たくさん情報を得られる情報社会の、まさにそれぞれの世代がこの情報社会でどういう思考活動をしているのかということを実感させていただきました。

“ワークスルー”という言葉がありましてね、ビルゲイツさんとか一生懸命やっている世界のリーダーは、学生時代にいろんな企業に行って、知恵も出す、それから勉強する中でいつの間にか世界のビルゲイツになっちゃったっていうのはありましたね。

そう考えながら、ひょっとしたらこの中にもビルゲイツがいるんじゃないかと。皆さんもこういうことを研究したい、こういう勉強がしたいというのがありましたら、市役所が力になりますので。もちろん学校でも、先生方にどんどん質問してガイダンスしてもらってください。

ただ一つ大事なことは、私も高校生時代にこれをしておけばよかったなと思うことがあるんですね。それは何かと言ったら、私はいわゆる文系でしたから、勉強はあまりしなかったんですが、今にしてみると化学や数学はちゃんと勉強しておけば、世の中に出たときにもうちょっと深い仕事ができたんじゃないかという思いをしております。今、どんな企業でも、どうやってサンプリングするとか、どうやって企業の分析ができるかっていうのはもう数学の知識なしにはできません。

皆さんが今日発表されたことをずっと持続する精神で関心を持って研究する、あるいは企業に勤めても皆さんの考えていることを実現するためにはね、やはりサイエンスと数学はしっかり勉強しておいた方がいいなということをおすすめしておきます。音楽も尽きるところ数学なんですと、音楽家が言っていますから。

そんなふうにしてこれからの皆さんの学生生活を過ごしていただければ我々今、社会の一翼を担った市としては大変ありがたく存じます。ぜひ、今日をご縁に市役所の仕事にも関心を持っていただいて、将来市役所に勤めたり、将来市役所に務める価値があるなと思っていただければ我々としても本望です。

今日は発表者以外にも保護者の方、あるいは関心を持って来ていただいた方もおられました。ありがとうございます。

まさに生涯学習時代でありますので、我々もずっと「なんでなの」と問うこと、常に聞く力をもっていきたいと思います。

1月23日の日経新聞の特集記事がありましてね、これはいろんな方が言っているので私自身も実感しているんですが、「誠実に君の時間を利用せよ。何かを理解しようと思ったら、遠くを探すな。近くを探してごらんなさい」とゲーテさんの言葉です。それからグラミン銀行の創設者ムハマド・ユヌスさんの言葉「大きく考えて、小さいことから始める」私もいくつかそういう経験をしておりますから、皆さんの小さいようだけれども、鋭い関心・問題意識を大事にしてください。

そんなことが非常に私としても記憶に残りまして、まさに老婆心ながらご紹介申し上げました。

まだまだコロナ感染症の勢いが止まりませんが、どうぞ1日1日を大事に素晴らしい高校生活、そして次の青春時代を大いに謳歌できるように期待しております。また、市役所が役に立つことができましたら、何なりとお声がけください。今日は本当にありがとうございました。

6 参加した高校生の声

■ 参加した高校生の感想をご紹介します



- これをやりたいなと思っても、正直難しいことの方が多いと思っていました。今回参加させていただいて「高校生だからできない」じゃなくて、「高校生だから」できることがかなり多いと思いました。この発表をゴールではなく、スタートにしていきたいです。
- いろいろな人に会うことが出来たし、フィールドワークでもたくさんのことを学ぶことが出来てとてもよかったです。今後も、いろいろなところに目を向けて探求していきたいと思いました。
- 最初は不安でしかなかったけれど、みんなと活動していく中で楽しいと感じるようになり、結果的には「やってよかった」と思うようになりました。
- 最初はどうなるかと思いましたが、なんとか形にでき、また自分のやっていることに対してもっと自信をもってできるように感じました。
- 政策提言はどこか遠いことのように感じていたけど、自分たちでもできる、むしろ自分たちだからこそできることがあると知ってとてもワクワクしました。とても充実した3か月間でした。
- テーマについてより深く考えていくのは難しいと思ったが、そこから学べることも多く、良い人生経験になったと感じました。

7 メディア掲載

令和4年度わかものボードレスプロジェクト報告会の様子は、下記のメディアにおいて報道されました。

【新聞】

福島民報 R5.1.30 朝刊

福島民友 R5.1.31 朝刊

【テレビ】

テレビ局 FCT

放送日 R5.2.5

番組名 郡山市週間トピックス

8 おわりに

集まった当初は、自分が考えていることを言葉にするのも難しく、初めて出会う人とのコミュニケーションにも躊躇している様子でしたが、回を進めるたびに自分のプロジェクトとしての想いが増し、単なる“提言”ではなく、自分自身の“宣言”として取り組んでいく姿が印象的でした。

彼ら・彼女らが報告会で発表した言葉に嘘偽りはなくまぎれもなく「この地域社会を良くしたい」という想いそのもので、想いのこもった力強い発言に心を動かされました。

プロジェクト終了後も多くの生徒がフィールドワーク先でつながった方々とコンタクトを取って、自らのプロジェクトテーマに取り組んでいる姿に頼もしさを感じています。

今回のプロジェクトでの出会いや学びを、自分たちの人生の糧として、これからも様々なことに取り組んでいただきたいと思います。

参加いただいた9名の高校生、そして高校生のチャレンジを支えてくださった地域の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(株式会社エフライフ 榎裕美)

令和4年度わかものボードレスプロジェクト実施報告書

2022(令和4)年

発行 郡山市政策開発部政策開発課

編集 株式会社エフライフ

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

TEL 024-924-2021

E-mail seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp